

# 臨床実習 経験と学びの記録

(倉敷平成病院理学療法科版 ポートフォリオ)



Oimatu 4-3-38, Kurashiki, Okayama, 710-0826  
Phone : 086-427-1190 (& 7720 or 7721)  
Fax : 086-427-1183

実習期間：平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

臨床実習生氏名： \_\_\_\_\_

主担当教育者： \_\_\_\_\_ 印

副担当教育者： \_\_\_\_\_ 印

実習監督者： \_\_\_\_\_ 印

© Department of Physical Therapy, Kurashiki Heisei Hospital. 2016

---

## 臨床実習 経験と学びの記録 目次

- 2 . . . . 目次
- 3 . . . . ようこそ，倉敷平成病院へ！
- 3 . . . . 臨床実習チームの教育体制
- 3 . . . . 臨床実習の教育目標（理想とする理学療法士像）
- 4 . . . . 臨床実習計画（長期実習）
- 5 . . . . 実習スケジュール
- 6 . . . . 診療参加の実践
- 7 . . . . 臨床実習の記録 ポートフォリオ
- 9 . . . . 臨床実習生の心構え
- 10 . . . . 臨床実習の評価
- 10 . . . . 臨床実習におけるメンタルヘルスケア
- 11 . . . . 当院臨床実習を円滑におこなうための諸規定

- 様式3 . . . . パーソナルポートフォリオ
- 様式4 . . . . デイリーノート
- 様式5 . . . . ウィークリーノート
- 様式6 . . . . 臨床経験気づきリスト
- 様式7 . . . . 臨床実習経験表（チェックリスト）
- 様式8 . . . . ローテーション実習感想文
- 様式9 . . . . 経験症例カルテ
- 様式10 . . . . 経験症例報告書
- 様式11 . . . . 凝縮ポートフォリオ

この「経験と学びの記録」はみなさんの実習をサポートするツールです。臨床実習でどのようなことを経験し学んだのか，指導者はみなさんの行動をどのように感じているのかなどを記録していきます。お互いのコミュニケーションの一助にもなりますし，学習の記録にもなります。積極的に書き込んであなただけの記録を残しましょう。

# ようこそ、倉敷平成病院へ！

臨床実習とは学内教育で学んだ知識や技術を踏まえて、臨床環境にて臨床教育者（Clinical Educator：以下、CE）\*1 のもとで実体験を通じ、基本的理学療法士の修得および理学療法士としての心構えを学ぶ教育の場です。今回の臨床実習が有意義なものとなるよう、一緒に頑張っていきましょう。

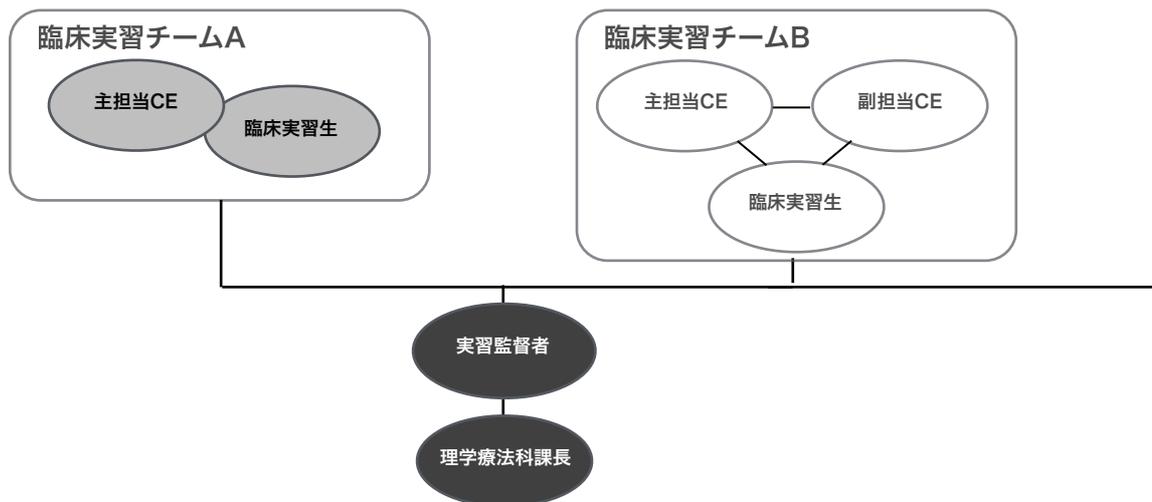
\*1 臨床教育者（Clinical Educator：CE）とは

臨床現場にて臨床実習生に診療行為の一部を経験させながら教育を行うセラピストのことです。

## 当院臨床実習の教育体制

臨床実習生1名に対し、主担当教育者（以下、主担当CE）\*2 が1名付きます。さらに必要に応じ、副担当教育者が付くこともあります。また当院内の実習全体を調整および総括する実習監督者が、必要に応じて臨床実習生および主・副担当教育者への助言およびメンタルヘルスをおこないます。

\*2 これまで指導者のことをスーパーバイザー（以下、SV）と呼んでいましたが、教育者としての立場を明確にするため、当院では主担当教育者と呼ぶこととしました。



## 臨床実習の教育目標（理想とする理学療法士像）

当院では理想とする理学療法士像を下記のように定義しています。目標を持ち臨床実習に臨みましょう。

- ① 急性期から生活期、予防期の理学療法を経験し、その多様性と共通点を理解し社会に貢献できる柔軟な発想を持った理学療法士
- ② 症例経験を通じて、社会から求められる知識および臨床スキル（理学療法技術、社会スキル、臨床推論力）を身に付けた理学療法士
- ③ 診療チームの中での理学療法の位置付けを理解し、他職種と協働できる理学療法士
- ④ 医療職として有すべき倫理観、態度、自己教育力、自己管理能力を身につけた理学療法士

## 臨床実習計画（長期実習）

全仁会グループは、急性期、回復期、生活期、予防領域における理学療法部門を有しており、臨床実習開始後3週間は「医療・介護保険分野別ローテーション実習」を行っています。（表1. 但しインフルエンザ等、感染症流行期は除く。）

- ① ローテーションする部門は、急性期病棟、回復期リハ病棟、外来（スポーツリハを含む）、通所リハ、予防リハ、訪問リハ、老人保健施設、です。
- ② ローテーション期間は、各部門を3日あるいは、2日ずつラウンドします。
- ③ 各分野別の理学療法の役割や意義なども考えながら実習に臨んで下さい。
- ④ ローテーション実習終了後に感想文を作成してもらいます。
- ⑤ 実習4週目以降はローテーション実習の経験を踏まえ、病院内にて主担当CEと共に症例に対し検査・測定から治療に至るまで理学療法を体験してもらいます。

表1 臨床実習計画（長期実習 一例）

	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w
実習形態	診療参加型実習 医療・介護保険分野別ローテーション実習			診療参加型実習 病院内実習				
実習環境	急性期病棟 回復期リハ病棟 外来（スポーツ外来） 通所リハビリテーション 老人保健施設 訪問リハビリテーション 予防リハビリテーション			リハビリテーションセンター・病棟（ベッドサイド） 急性期病棟 回復期リハ病棟 外来				
経験内容	検査測定行為（すべての部門） 治療訓練行為（すべての部門） リスク管理（急性期） 問診（外来：有痛性疾患症例に対し） カンファレンス参加（回復期リハ病棟） handicap への対応（介護系） 集団体操指導（通所・予防リハ・老健） 自宅環境への対応（訪問リハ） トレーニング機器（予防リハ）			検査測定行為 治療訓練行為 1週間以上、主または副担当臨床教育者とともに診療参加する症例 最低3症例以上：中枢神経疾患・運動器疾患・呼吸器疾患 短期間、他の指導者とともに診療参加した症例 約20症例以上 装具診見学 手術見学（機会があれば） 経験症例カルテ作成：1症例以上 リハビリテーション総合実施計画書作成：1症例以上 経験症例報告書（サマリー）作成：1症例以上 他職種の見学（OT/ST/CP）				
実習課題	ポートフォリオ作成 ローテーション実習感想文			ポートフォリオ作成 経験症例カルテ・経験症例報告書 作成				

# 実習スケジュール

## ① 1日のスケジュール（平日例、半日の場合はAMのみ）

AM

8:30 ~ 8:40 朝礼

8:40 ~ 9:00 CEとミーティング

9:00 ~ 12:15 CEとともに診療参加  
(半日の場合は、12:15 ~ センター掃除)

PM

12:15 ~ 13:00 昼休憩

13:00 ~ 16:00 CEとともに診療参加

16:00 ~ 17:00 診療録等の記載

17:00 ~ 17:15 リハセンター清掃

17:30 ~ 18:00 CEとミーティング  
(フィードバック)

### ※ 病院内実習以降

できるだけ診療時間内に、経験症例カルテを記載する時間を取りましょう。

## ② 1週間のスケジュール

実習日：月～金（1日）、土曜AM

休日：土曜PM、日曜、祝日

ただし主担当CEの休日出勤等の状況に合わせて、不規則になる場合もあります。

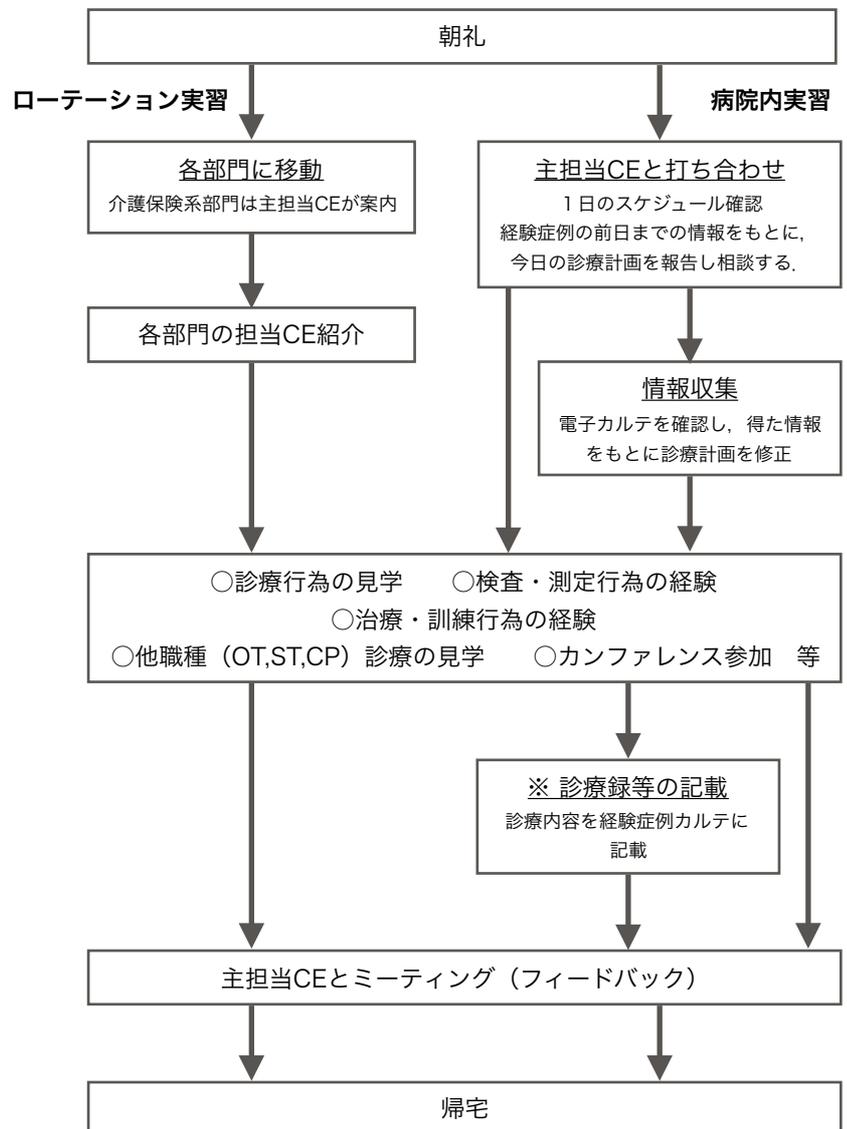
毎週木曜日、17:30 よりPT科内勉強会を行っています。

参加希望する際は主担当CEに相談して下さい。

## ③ ミーティング（フィードバック）および帰宅について

(1) 疑問点を解決し臨床推論を深めるためにも、積極的に質問をしましょう。

(2) 業務後、遅くとも 18:30 まで臨床実習生は帰宅できるよう心がけましょう。



## 診療参加の実践

当院ではクリニカルクラークシップ (Clinical Clerkship) という「診療参加型」臨床実習システムを導入しています。具体的には「助手として診療チームに参加し、実体験を通じてセラピストとして修得すべきスキルと professionalism (態度、倫理観) を育成していく臨床実習形態」ことを言います。重要なことは机上の学習のみでなく、「現場で体験して、その場で学習する」ことにあります。

### 【診療参加の実践】

- (1) CEと臨床実習生はチームを組み、一緒に診療参加をおこないます。(CEが付き添わず臨床実習生が単独で患者診療をおこなうことは、法律上認められません)
- (2) 技術項目(〇〇関節のROM test や 〇〇筋の筋力増強運動など)を細分化して、CEの診療に参加します。
- (3) 参加するにあたり、まずはしっかり「見学」をしてもらいます。
- (4) 次に、助言を受けながらCEの行為を「模倣」し、具体的な方法(ROM test の把持の仕方、筋力増強運動の抵抗の加え方、治療・訓練時のリスク管理など)を学んでいきます。
- (5) 具体的な方法やリスクを把握し患者に対して安全に治療・訓練を行うことができるとCEが判断した時は、その治療・訓練をCEの監視下にて1人で「実施」します。

### 【学びの point】

- (1) いきなりすべてができるとは思っていません。できることから治療・訓練に参加します。
- (2) このシステムの利点は、多くの患者の診療に参加することで、教科書では学ぶことのできない感覚的部分(関節の終末抵抗感の違い、筋力増強運動の抵抗の加え方や強さ、動作観察の視点など)を経験することにあります。
- (3) 経験内容は、臨床実習生の積極性で差が出ます。1から10まですべてを教えてもらうのではなく、それまでの経験を次に活かせるよう、内省(振り返り)をしましょう。
- (4) 経験度は臨床実習経験表(チェックリスト)を用いて確認します。



見学： CEが解説しながら、臨床実習生は診療行為を見学すること

模倣： 見学を数回行った後、CEの監督、助言のもと、実際に診療行為を経験させる

実施： 模倣を繰り返した後、治療目的およびリスクを概ね説明でき診療行為を実施できる

# 臨床実習の記録 ポートフォリオ

臨床実習の記録として、当院ではポートフォリオ\*3を採用しています（表2）。

\*3 元々は「紙ばさみ」「書類入れ」の意味。紙ばさみ（ファイル）を用いて、臨床実習中に作成した資料などをテーマごとにすべて挟みこみ整理することで、自己評価やCEとのフィードバックに役立てていくツールです。

表2 倉敷平成病院 理学療法科 ポートフォリオ書式

オリエンテーション資料	臨床実習の諸規則・臨床実習スケジュール表	様式1
	自己紹介（生い立ち、あなたの良いところ、得意なこと、など）	
パーソナルポートフォリオ （実習初日に作成）	目標シート（将来の目標、今回の実習目標） イメージシート（実習中に起こりうる出来事について、具体的にイメージする）	様式3
実習ポートフォリオ	デイリーノート（一日の行動目標、学んだこと、疑問点、感想および自己評価、CEからのコメント）	様式4
	ウィークリーノート（一週間の感想、次週の目標、行動目標達成度）	様式5
	臨床経験気づきリスト	様式6
	臨床実習経験表（チェックリスト）	様式7
	ローテーション実習感想文	様式8
	経験症例カルテ・経験症例報告書 ※ 病院内実習開始後から使用	様式9.10
	凝縮ポートフォリオ ※ 実習最終日に提出	様式11
	その他 臨床実習生が作成した資料や、参考にした文献など	

## ① ポートフォリオの作成について

- (1) A4サイズのリングファイルを準備し、すべての書式を挟みましょう。その際、仕切りラベルを用いて、書式ごとに整理すると分かりやすいです。
- (2) ポートフォリオは毎朝、主担当CEに提出しましょう。その際、前日記載したページに付箋をつけると分かりやすいです。
- (3) 主担当CEは毎日、ポートフォリオの内容を確認しコメントおよびサインを残します。ローテーション実習期間中および主担当CEが休日の場合は、他のCEがコメントを残すこともあります。
- (4) 記載の際は個人情報が流出しないよう、細心の注意を払いましょう（イニシャル等は書かない）。

## ② 各書式の説明および活用方法

### 【パーソナルポートフォリオ】（様式3）

- 臨床実習生が自己を表現し、診療チームへの参加を円滑にするためのツールです。
- ・実習初日、オリエンテーション後に作成します。

#### 【デイリーノート】（様式4）

→毎日の学習記録および内省（振り返り）するツールです。

- ・翌日の「行動目標」まで記載し、朝のミーティング後、主担当CEへ提出しましょう。行動目標は、行動できたか否かが判るよう、具体的に記載しましょう。

#### 【ウィークリーノート】（様式5）

→一週間の内省（振り返り）および次週の目標計画を立てるツールです。

- ・週末に作成し、月曜日（祝日の場合は火曜日）に提出しましょう。行動目標達成度は、マイナス面、プラス面の両方を評価しましょう。

#### 【臨床経験気づきリスト】（様式6）

→経験の中で学んだこと、理解を深めたことについて記載し、まとめていくツールです。

- ・内容について教科書や文献を用いて、裏付けを行きましょう。
- ・引用文献名、引用ページを残すようにしましょう。
- ・「表」や「線画」、「イメージ図」、「資料の切り抜き」などを用いて、記載しても構いません。

#### 【臨床実習経験表（チェックリスト）】（様式7）

→経験した理学療法技術を記録し、修得状況を把握するツールです

- ・8週間実習の場合、実習初日（前回実習）、2w, 4w, 6w, 最終日に、臨床実習生が自己評価として記載します。
- ・実習期間中にすべての項目が、独力実施できないといけない訳ではありません。
- ・主担当CEと相談しながら、経験すべき項目を決めていきます。
- ・チェックリストの記入は以下の印でおこなう。

◎ CE監視のもと、独力で実施（実施にあたり、リスクを把握し不測の事態に対応できる）

○ CEの直接指導下にて頻回に経験

△ CEの直接指導下にて2, 3回程度経験

▽ 見学のみ経験

空白 経験なし、見学なし

#### 【ローテーション実習感想文】（様式8）

→3週間のローテーション実習終了後に学んだことを、A4用紙1枚以内で作成します。

- ・テーマは、「急性期から維持期、予防領域における理学療法士の役割」とします。

#### 【経験症例カルテ・経験症例報告書（サマリー）】

##### (1) 経験症例カルテ（様式9）

→主担当CEとともに診療参加した経験症例のうち1～2症例を記録し、推論考察するツールです。

- ・病院実習開始後より、規定の書式を用い毎日記載します。
- ・SOAP + 2R (result, re-assessment) 方式にて記述します。

Subjective	: 主観的情報（患者の訴えなど、その表現に近い形で記録）
Objective	: 客観的情報（検査測定、評価の結果など確かめられた事実を記載。CEより得られた客観的情報も記載）
Assessment	: 評価（SやOの情報より得られるあなたの判断や推論を記載）
Plan	: 治療計画・治療プログラム（Aに基づいて治療を計画し実施した内容を記載）
Result	: 結果（Pによる介入後、どのような反応や変化、効果を認めたか or 認めなかったのかを記載）
Re-assessment	: 再評価（なぜ上記のようなRとなったのかを考察し記載。明日以降の診療計画も記載）

## (2) 経験症例報告書（サマリー）（様式10）

→主担当CEと診療参加した経験症例のうち、1症例の経過を要約し、他者に報告するツールです。

- ・指定のA4書式2枚で作成します。
- ・原則、実習最終週にのみ提出します。
- ・介入初期および中間に経験症例の論点整理を希望する際は、リハビリテーション総合実施計画書をCEとともに作成し、指導、助言を受けます。

## 【凝縮ポートフォリオ】（様式11）

→実習終了時にこれまでに作成したポートフォリオを俯瞰し、再構築することで実習全体を内省（振り返り）するツールです。

- ・A4用紙1～2枚で作成します。
- ・ポートフォリオを振り返り、臨床実習生自身が重要と感じたものとテーマごとに再構築します。
- ・テーマは「見学・経験した疾患」、「参考になった臨床的思考」、「自分が成長した点」、「今後の課題」です。

## 【その他】

- ・臨床推論の参考にした文献や、科内勉強会の資料等もポートフォリオに挟んでいきます。

## ③ 養成校のレポート課題について

(1) 当院では従来の叙述型レポートの課題は課しません。

(ただし養成校よりレポート作成依頼があれば、養成校側と内容を協議し最終週に提出します。)

# 臨床実習生の心構え

臨床実習生は下記の心構えを意識し、診療参加するように心がけましょう。

臨床実習生は…

- ① 常に疑問を持ちながら診療参加する。
- ② 常に「自分の立場で患者に貢献できることは何か」を考えながら診療参加する。
- ③ みずから患者と関わる機会を作り、患者の思いを傾聴し共感したコミュニケーションをおこなう。
- ④ 自分の疑問を解決し、CEの考えを知ることができるよう、積極的な質問をおこなう。
- ⑤ CEに質問をおこなう際は、自分の考えや意見も述べるようにする。
- ⑥ CEの診療補助ができるよう、積極的に助言を求め診療技術の修得を図る。
- ⑦ 毎日の行動目標は、達成可否がわかるよう具体的に立てる。
- ⑧ 未解決の疑問や課題に対し、文献や教科書を用いて積極的に予習および復習をおこなう。
- ⑨ 社会人として礼儀および節度ある言動をおこなうとともに、決められた規則を守る。

# 臨床実習の評価

当院では臨床実習の評価を、①臨床実習生の評価 ②臨床実習環境および主担当CEへの評価 の両面からおこないます。

## ① 臨床実習生の評価

- (1) 「臨床実習生の心構え」の視点から行動を評価します。
- (2) 臨床実習終了前に当院規定の書式を用い、臨床実習の振り返り（自己評価）をおこないます。
- (3) 臨床実習終了前日に主担当CE、臨床実習生、実習監督者の3人で成長点、到達度、今後の課題を話し合う場を持ちます。
- (4) 臨床実習中に問題となる行動を認め、指導および助言を受けても改善しなかった場合のみ「判定保留」となることがあります。

### 【問題行動の定義および対応について】

- (1) 理学療法士になる上で不適切と思われる態度や言動、重大な規則違反および養成校の求める臨床実習日数に到達しない場合などを指します。
- (2) 問題行動を認めた際は養成校へ報告し、定期的な実習訪問を依頼することがあります。

## ② 臨床実習生による、臨床実習環境および主担当CEへの評価

- (1) 当院の実習環境および臨床実習指導改善のための評価です。
- (2) 本評価表は無記名であり、総合評価に影響することはありません。
- (3) 不満点については建設的な提案を期待します。
- (4) 記載後は実習監督者へ提出してください。

# 臨床実習におけるメンタルヘルスケア

臨床実習は、臨床実習生、CE双方にとってストレスフルになりうるイベントです。当院では臨床教育施設として、サポート内容および環境を整え多角的なメンタルヘルスケアに取り組みます。困ったことがあれば遠慮せず早期に相談してください。

表3 臨床教育施設における多角的なメンタルヘルスケア

臨床実習生自身のセルフケア	健康的な生活習慣（食事・睡眠）	実習監督者からのケア	臨床実習生およびCEへの助言（必要に応じ面接の実施）
	ポートフォリオを用いた内省		臨床実習生およびCEからの相談の受け入れ
CEからのケア	臨床実習生への共感的姿勢	理学療法科課長からのケア	養成校との情報共有
	診療参加型実習による段階的な権限移譲（学生の能力に応じた指導）		問題発生時の対応方針の決定およびCEおよび実習監督者への助言
	臨床実習における課題の把握と調整		臨床実習施設への訪問
	臨床実習生の生活状況の把握	養成校からのケア	臨床実習生、CE、実習監督者への助言

# 当院臨床実習を円滑におこなうための諸規定

臨床実習を円滑におこなうため、下記の規則を守りましょう。

## ① 臨床実習期間中の交通手段および車両利用について

- (1) 臨床実習期間中の通勤については、公共交通機関および自転車のみ使用を許可します。特別な事情を除き四輪自動車および二輪車、原動機付自転車の使用は原則、許可しません。
- (2) 休日の四輪自動車および二輪車、原動機付自転車の使用については、各養成校の実習指導の手引きにある指定規則に従います。規則がない場合、休日の車両使用は許可します。
- (3) 臨床実習期間中（勤務時間および休日含む）、交通事故に遭った場合、事故対応（警察、保険会社等へ連絡、病院受診等）したのち、速やかに養成校および臨床実習監督者に報告してください。

## ② 天候不良時の対応

- (1) 原則、各養成校の実習指導の手引きにある指定規則に従います。規則がない場合は以下とします。
- (2) AM6:30の時点で、暴風警報が発令していた場合は自宅待機とします。
- (3) AM10:30までに暴風警報が解除となった場合、午後より実習をおこないません。
- (4) AM10:30以降、暴風警報が続く場合、当日の実習は中止とします。
- (5) 臨床実習生が通勤後、天候不良が予測される場合は早期帰宅を検討します。
- (6) 大雨警報の場合は原則、自宅待機をおこなわないが、雨量による通勤上の危険を考慮し、暴風警報発令時と同様の対応を取る場合があります。

## ③ 体調不良時の対応

- (1) 体調不良（咳、発熱、嘔吐、下痢、倦怠感、目の腫れなど）を感じた際は、早期に主担当CEへ報告しましょう。
- (2) インフルエンザの流行期に起床時の体温が37.5℃以上の場合、自宅待機とします。発熱を認めた際は速やかに主担当CEへ連絡しましょう。

## ④ 個人情報保護について

- (1) 個人が特定されないよう記載内容に注意しましょう（イニシャル、年齢等は書かない）。
- (2) メモ帳などの置き忘れに注意しましょう。
- (3) 臨床実習中のSNS（Facebook等）の使用は禁止します。

## ⑤ その他

- (1) 業務時間後の掃除には必ず参加しましょう。
- (2) 不明な時の解決方法：何かわからないことがあれば、些細なことでも相談しましょう。
- (3) 体調不良等で休む際は、速やかに主担当CEへ連絡を取りましょう。その際、病院内線（表紙参照）に連絡してください。
- (4) 昼食は職員食堂かリハスタッフルームでとってください。
- (5) 職員寮を借りている場合は、適宜、掃除をしましょう（特に退室の際）。
- (6) 病院敷地内は禁煙です。病院敷地外でも道路などでの喫煙はやめましょう。

## 臨床実習 スケジュール (例示)

養成校名 \_\_\_\_\_ 大学 ( \_\_\_\_\_ 期 )

氏名 : \_\_\_\_\_

指導者 : RPT \_\_\_\_\_

監督者 : RPT \_\_\_\_\_

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1W	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17
医療・介護保険分野理学療法ローテーション実習	オリエンテーション プロフィール作成	ローテーション実習 (回復期リハ病棟：4西)	ローテーション実習 (回復期リハ病棟：4西)	ローテーション実習 (回復期リハ病棟：4西) PT科勉強会	ローテーション実習 (2・3F急性期病棟)	ローテーション実習 (2・3F急性期病棟) PM休日	休日
2W	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24
医療・介護保険分野理学療法ローテーション実習	ローテーション実習 (2・3F急性期病棟)	ローテーション実習 (外来)	ローテーション実習 (外来・スポーツ外来)	ローテーション実習 (通所リハ) PT科勉強会	ローテーション実習 (通所リハ)	ローテーション実習 (老人保健施設) PM休日	休日
3W	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31
医療・介護保険分野理学療法ローテーション実習	ローテーション実習 (老人保健施設)	ローテーション実習 (予防リハ)	ローテーション実習 (予防リハ)	ローテーション実習 (訪問リハ) PT科勉強会	ローテーション実習 (訪問リハ)	病院内実習開始 経験症例紹介 PM休日	休日
4W	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7
病院内実習				PT科勉強会		PM休日	休日
5W	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14
病院内実習				PT科勉強会		PM休日	休日
6W	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21
病院内実習				PT科勉強会		PM休日	休日
7W	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28
病院内実習				PT科勉強会		PM休日	休日
8W	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	
病院内実習				PT科勉強会		実習終了	

臨床実習が始まるにあたり、いままでの自分、いまの自分、将来の自分（どのような理学療法士になりたいのか）を明文化しておきましょう。今後、いろいろな経験があると思いますが、そのたびに原点に立ち戻るために役立ちます。

## 自己紹介：あなたについて教えてください

### わたしが生まれてから現在に至るまでのヒストリーです：

生まれてから現在までの生い立ちを、一目でわかるように書いてみましょう。書きたくないことまで無理に書かなくても良いです。書ける範囲で書いてみましょう。

### わたしの良いところはここです：

自分らしいところ、大切なところ、気に入っているところ、得意なこと、など思いつくまま書いてみましょう。そしてなぜそう思うのかも書いてみましょう。

## 目標シート：あなたの目標を教えてください

**わたしは将来、こんな理学療法士になりたいです：**

なぜそのように思ったのか、その理由も一緒に書いてみましょう。

**わたしは目指す理学療法士になるため、臨床実習ではこのようなことを目標にします：**

今回の臨床実習で成長したいことや目標を、具体的に書いてみましょう。

## イメージシート：あなたが実習中に体験、遭遇することを想像してみましょう

### わたしはこの臨床実習で関わる方々に、このように思われたいです：

臨床実習中、あなたは関わる方々からどのような印象を持ってもらいたいですか、どのような気持ちになってもらいたいですか。一言で書いてみましょう。

私は患者さま から、 \_\_\_\_\_ と思われたい。

私は実習指導者 から、 \_\_\_\_\_ と思われたい。

私は他の病院スタッフ から、 \_\_\_\_\_ と思われたい。

私は（ \_\_\_\_\_ ）から、 \_\_\_\_\_ と思われたい。  
あなたが思いつく方

### わたしは関わる方々の思いに応えるため、このような行動をしていきます：

周りの方々の思いに応えるため、あなたが具体的に起こす行動をイメージして書いてみましょう。

### わたしはこのようにことに気をつけて臨床実習に臨みます：

臨床実習中に起こる最悪な事態や出来事を想像してみましょう。そして普段からどのように気をつけておくのか具体的にイメージして書いてみましょう。



## Daily Note

H \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( \_\_\_\_\_ )

一日の行動目標 (できるだけ具体的に立てましょう)

一日の行動記録 (症例に関わった時間帯、疾患名、○歳代、性別、診療参加度 (見学のみ、模倣・実施経験あり) を記載)

AM

PM

今日、印象に残ったこと・新たな発見

今日、解決できなかったこと・フィードバック後に生じた新たな疑問

今日の感想・自己評価

CEからのコメント

CEサイン \_\_\_\_\_

## Daily Note

H 年 月 日 ( )

一日の行動目標 (できるだけ具体的に立てましょう)

一日の行動記録 (症例に関わった時間帯、疾患名、○歳代、性別、診療参加度 (見学のみ、模倣・実施経験あり) を記載)

AM

PM

今日、印象に残ったこと・新たな発見

今日、解決できなかったこと・フィードバック後に生じた新たな疑問

今日の感想・自己評価

CEからのコメント

CEサイン

## Weekly Note

\_\_\_\_\_ 週目            H \_\_\_\_\_ . \_\_\_\_\_ . \_\_\_\_\_ ~ H \_\_\_\_\_ . \_\_\_\_\_ . \_\_\_\_\_

### 1. 1週間を振り返ってみましょう：

今週の感想（学んだこと、成長したこと、反省など）

来週の目標・課題

行動目標達成度：            /100点  
その理由は

CEサイン \_\_\_\_\_

## Weekly Note

\_\_\_\_\_ 週目            H \_\_\_\_\_ . \_\_\_\_\_ . \_\_\_\_\_ ~ H \_\_\_\_\_ . \_\_\_\_\_ . \_\_\_\_\_

### 1. 1週間を振り返ってみましょう：

今週の感想（学んだこと、成長したこと、反省など）

来週の目標・課題

行動目標達成度：            /100点  
その理由は

CEサイン \_\_\_\_\_





### 臨床実習経験表 (チェックリスト)

氏名： \_\_\_\_\_ 養成校名： \_\_\_\_\_  
 臨床実習名： (長期・短期) 臨床実習 ( \_\_\_\_\_ ) 期  
 臨床実習期間 H . . . . . ~ H . . . . .

臨床実習期間中に経験した理学療法を記録し、CEに確認してもらいましょう。  
 8週間実習では、初日、2・4・6週、最終日にチェックをしましょう。

- ◎ CE監視のもと、独力で実施 (実施にあたり、リスクを把握し不測の事態に対応) できた
- CEの直接指導下にて頻回に経験した
- △ CEの直接指導下にて2、3回程度経験した
- ▽ 見学のみ経験した
- 空白 経験なし、見学なし

◆検査測定項目

		開始時 (前回実習)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	最終時 (実習終了)	
情報 収集 ・ 問診	カルテ・画像						
	検査所見 (血液データなど)						
	他のセラピスト (OT・ST)						
	ソーシャルワーカー						
	看護師						
	医師						
	患者本人・家族						
生理 機能 検査	意識状態 (JCS or GCS)						
	バイタル チェック	体温測定					
		血圧測定					
		脈拍測定					
	呼吸数						
	経皮的酸素飽和度 (パルスオキシメーター)						
	呼吸 機能	肺音聴診					
		胸部触診					
		胸部打診					
	循環 機能	心電図モニター					
皮膚色視診							
末梢浮腫触診							
DVT評価 (Homans sign, Lowenberg sign)							

◆検査測定項目

		開始時 (前回実習)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	最終時 (実習終了)
	運動耐容能 (6分間歩行)					
	炎症所見評価 (熱感・腫脹・発赤・疼痛)					
形態 測定	上肢長 (上腕長・前腕長)					
	上肢周径 (上腕周径・前腕周径)					
	下肢長 (棘果長・転子果長・臍果長・大腿長・下腿長)					
	下肢周径 (大腿周径・下腿周径)					
関節 可動 域測 定	上肢関節 (肩関節・肘関節・手関節)					
	手指					
	下肢関節 (股関節・膝関節・足関節・足趾)					
筋力 検査	徒手					
	頸部・体幹					
	上肢関節 (肩関節・肘関節・手関節)					
	下肢関節 (股関節・膝関節・足関節)					
	手指・足趾					
機器による筋力測定 (等速性収縮など)						
片麻痺 機能	Brunnstrom Recovery Stage					
	Stroke impairment assessment set (SIAS)					
筋緊張 検査	触診による評価					
	他動運動による評価 (Modified Ashworth Scale)					
	自動運動による評価 (placing・膝立てなど)					
協調 性検 査	上肢 (鼻指鼻試験・膝打ち試験 など)					
	下肢 (踵膝試験・脛叩打試験 など)					
	体幹・立位 (体幹座位・Romberg test など)					
反射 検査	深部腱反射・クローヌス					
	病的反射 (ホフマン・強制把握・バビンスキーなど)					
感覚 検査	表在感覚 (触覚・痛覚など)					
	深部感覚 (位置覚・運動覚など)					
脳神 経 検査	眼球運動 (ここでは視野検査も含む)					
	顔面運動 (閉眼・口すぼめ・blow out など)					
心理 認知 機能 検査	質問式 (長谷川式・MMSE-J など)					
	観察式 (CDR・柄沢式 など)					
	言動・行動観察					
高次 脳機 能検 査	失行 (構成失行・観念運動失行など)					
	失認 (空間失認・身体失認など)					
	遂行機能障害					
	注意障害					

◆検査測定項目		開始時 (前回実習)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	最終時 (実習終了)
疼痛検査	疼痛診断 (部位・程度・質・再現性・増減条件)					
	評価チャート (VAS・McGill pain questionnaire など)					
	誘発テスト					
	- 上肢					
	- 腰椎・骨盤					
	- 下肢					
バランス検査	座位バランス(静的・動的・外乱負荷応答)					
	立位バランス(静的・動的・外乱負荷応答)					
	機能的バランス検査 (FR・TUG・FBS など)					
姿勢動作観察	姿勢・アライメント観察 (座位・立位)					
	寝返り					
	起き上がり					
	立ち上がり					
	歩行					
ADL評価	行為観察					
	- 基本的ADL (食事、更衣、入浴など) 行為観察					
	- IADL・職業動作観察					
	評価表					
	- Barthel index					
	- Functional independence measure (FIM)					

検査測定項目 CE確認印						
CEからの助言・アドバイス						

◆治療項目 : 物理療法		開始時 (前回実習)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	最終時 (実習終了)
温熱療法 (ホットパック・パラフィン)						
寒冷療法 (アイシング)						
水治療法 (渦流浴・交代浴)						
電気刺激療法	治療的電気刺激 (TES) ESPERGE, IVIS など					
	経皮的電気刺激療法 (TENS・SSP)					
光線療法 (極超短波)						
超音波療法						
骨折超音波療法						
牽引療法(頸椎・腰椎)						

物理療法項目 CE確認印						
CEからの助言・アドバイス						

◆治療項目 : 運動療法		開始時 (前回実習)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	最終時 (実習終了)
関節可動域運動	上肢関節 (肩関節・肘関節・手関節)					
	下肢関節 (股関節・膝関節・足関節)					
	手指・足趾					
	頸部・体幹					
筋力増強運動	徒手抵抗					
	- 上肢関節 (肩関節・肘関節・手関節)					
	- 下肢関節 (股関節・膝関節・足関節)					
	- 手指・足趾					
	- 頸部・体幹					
	- 機器・用具の使用					
	- CKC 運動					
協調性運動 (フレンケル体操・スタビライゼーション訓練など)						
持久力運動	局所					
	全身調整					
	筋持久力運動					
	座位耐性訓練					
	立位耐性訓練 (tilt table・standing table など)					
運動指導	自主トレーニング (腰痛体操・大腿四頭筋セッティング など)					
	集団体操指導					
	糖尿病運動指導					
呼吸理学療法	呼吸介助訓練					
	排痰訓練					
	吸引					
治療テクニック	神経生理学的アプローチ (姿勢筋緊張調整・痙性制御)					
	PNF					
	認知運動療法					
	関節モビライゼーション					
	神経モビライゼーション					
	マッサージ					
	筋膜リリース					
	テーピング					
足底挿板 (インソール) 作成						
ロボットスーツHAL						

◆治療項目 : 運動療法		開始時 (前回実習)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	最終時 (実習終了)
基本的動作練習	寝返り					
	起き上がり					
	座位					
	立ち上がり・立位					
	移乗					
	車いす操作					
	歩行 (免荷歩行含む)					
応用歩行	屋外歩行					
	階段昇降					

運動療法項目 CE確認印						
CEからの助言・アドバイス						

◆治療項目 : ADL介助・指導		開始時 (前回実習)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	最終時 (実習終了)
ベッド上ポジショニング						
起居介助	監視・軽度介助 (FIM 5点・4点レベル)					
	中等度介助 (FIM 3点レベル)					
	重度・全介助 (FIM 2点・1点レベル)					
移乗介助	監視・軽度介助 (FIM 5点・4点レベル)					
	中等度介助 (FIM 3点レベル)					
	重度・全介助 (FIM 2点・1点レベル)					
歩行介助	監視・軽度介助 (FIM 5点・4点レベル)					
	中等度介助 (FIM 3点レベル)					
	重度・全介助 (FIM 2点・1点レベル)					
車椅子介助						
トイレ動作						
更衣動作	衣服					
	コルセット					
	装具					
入浴動作						
IADL・職業動作 (スポーツ動作含む)						

◆治療項目 : ADL介助・指導		開始時 (前回実習)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	最終時 (実習終了)
装具・自助具	長下肢装具					
	短下肢装具					
	杖・松葉杖指導					
	車椅子シーティング					
訪問指導 (退院前訪問など)						

ADL介助・指導項目 CE確認印						
CEからの助言・アドバイス						

◆その他		開始時 (前回実習)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	中間 ( 週目)	最終時 (実習終了)
書類作成	カルテ記載					
	リハビリテーション総合実施計画書					
	リハビリテーションサマリー					
	カンファレンス参加					

その他項目 CE確認印						
CEからの助言・アドバイス						

◆経験した症例の疾患名・障害名 (術式等含む) を記載しましょう

記載例: 大腿骨頸部骨折 (人工骨頭置換術)
------------------------



## ローテーション実習 感想文

氏名：

養成校名：

臨床実習名：（長期・短期）臨床実習（ ）期

ローテーション期間 H . . . . . ～ H . . . . .

ローテーション部門（急性期・回復期・外来・スポーツ外来・老人保健施設・通所リハ・訪問リハ・予防リハ）

テーマ：急性期、回復期、維持期、予防期における理学療法士の役割



## 経験症例カルテ

SOAP + 2R (result, re-assessment) 方式にて記載しましょう。  
 修正するときは二重線を引き、上から修正印を押すようにしましょう。

H \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( \_\_\_\_\_ )      介入時間 ( \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_ ) ~ ( \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_ )

<b>Subjective</b>	: 主観的情報 (患者の訴えなど、その表現に近い形で記録)
<b>Objective</b>	: 客観的情報 (検査測定、評価の結果など確かめられた事実を記載。CEより得られた客観的情報も記載)
<b>Assessment</b>	: 評価 (S や O の情報より得られるあなたの判断や推論を記載)
<b>Plan</b>	: 治療計画・治療プログラム (A に基づいて治療を計画し実施した内容を記載)
<b>Result</b>	: 結果 (P による介入後、どのような反応や変化、効果を認めたか or 認めなかったのかを記載)
<b>Re-assessment</b>	: 再評価 (なぜ上記のような R となったのかを考察し記載。明日以降の診療計画も記載)

CEサイン \_\_\_\_\_

## 経験症例カルテ

SOAP + 2R (result, re-assessment) 方式にて記載しましょう。  
 修正するときは二重線を引き、上から修正印を押すようにしましょう。

H \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( \_\_\_\_\_ )      介入時間 ( \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_ ) ~ ( \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_ )

<b>Subjective</b>	: 主観的情報 (患者の訴えなど、その表現に近い形で記録)
<b>Objective</b>	: 客観的情報 (検査測定、評価の結果など確かめられた事実を記載。CEより得られた客観的情報も記載)
<b>Assessment</b>	: 評価 (S や O の情報より得られるあなたの判断や推論を記載)
<b>Plan</b>	: 治療計画・治療プログラム (A に基づいて治療を計画し実施した内容を記載)
<b>Result</b>	: 結果 (P による介入後、どのような反応や変化、効果を認めたか or 認めなかったのかを記載)
<b>Re-assessment</b>	: 再評価 (なぜ上記のような R となったのかを考察し記載。明日以降の診療計画も記載)

CEサイン \_\_\_\_\_

## 経験症例 報告書

性別：男性・女性

年齢： 歳代

診断名：

(発症日：H . . .)

PTS介入期間：H . . . ~ H . . .

---

### 1. 基本情報

現病歴および入院後経過

既往歴

社会的背景（生活歴、家族構成・keyperson、生活環境 等）

### 2. 最終介入時 理学療法評価

認知機能・精神面

身体機能面

ADL (Motor FIM： 点 Cognitive FIM： 点)

---

3. 本症例の障害構造をICIDH あるいは ICF を用いて記載しましょう

4. 最も問題となった能力低下をひとつ挙げ、逸脱動作と機能障害の関連を臨床思考図（概念図）を用いて記載しましょう

5. 考察：3、4を踏まえて本症例の統合と解釈を簡潔に記載しましょう

6. あなたが本症例の診療経験を通して学んだことを記載しましょう

養成校名 :

報告者氏名 : \_\_\_\_\_ 印                      臨床教育者氏名 : \_\_\_\_\_ 印

倉敷平成病院 リハビリテーション部 理学療法科

## 凝縮ポートフォリオ

氏名：

養成校名：

臨床実習名：（長期・短期）臨床実習（ ）期

臨床実習期間 H . . . . . ～ H . . . . .

あなたがこれまでに作成したポートフォリオを振り返り、下記の4つのテーマでまとめてみましょう。

テーマ

1. 見学・経験した主な疾患（1週間以上、同一患者にて診療参加した疾患は◎をつける）
2. 参考になった臨床的思考
3. 自分が成長した点
4. 今後（次回の実習や就職後）の課題